

女のからだ

自己検診で早期発見



Q 最近知人が乳ガンと診断され、手術を受けました。雑誌や新聞でもいろいろ取り上げられていますが、乳ガンにかかりやすい体質とはどういうものか教えてください。

A 現在のところ、まだ乳ガンの原因については他のガンと同じように未解決のままですが、疫学的な調査が進むにつれて、乳ガンにかかりやすい女性のタイプ（ハイリスク・グループ）が少しずつ判ってきました。三十五歳以上の高齢初産、未産、閉経後肥満、遺伝的素質などがその主なものです。乳ガンには、女性ホルモンの一種である卵胞ホルモンの影響が大きく関係していると言われてい

ます。以上のようなことを頭において、早期発見につとめ（自己検診）、さらに進んで定期検診を受け

本人より欧米人に多いとされていますが、ここ十数年の間に、日本でも乳ガン患者が急増してきました。原因は、栄養状態が欧米

なみに良くなり、肥満女性が多くなってきたこと、また初潮が早くなり、閉経年齢が遅くなってきたためと言われています。

つまり女性ホルモンの一種である卵胞ホルモンの作用を長くうける分だけ、乳ガンにかかりやすくなっているというわけです。

特に最近心配されているのは、若い女性の乳ガンの増加です。昔と比べて幼年期の発育が早く、性的成熟も早まってきているため、若いから乳ガンとは関係ないとは言えなくなっています。

乳ガンの自己検診法

乳ガンは、肥満をできるだけ避ける以外、ならないようにするの

す。生理が終わった日の入浴後には必ず実行しましょう。閉経後の女性は毎月一回忘れずに。

（乳ガンのみつけ方）

①鏡の前に立って、両方の乳が左右対称的な形をしているか、くぼみ、赤み、ひきつれ、しみなどはないかを見ます。

②あおむけに寝て、指をそろえた手のひらで乳房を軽く圧迫しながら、上から下へ触れてみます。この場合、乳房の内側を調べる時は調べている乳房のある側の腕をま

つすぐ頭の横にくっつけるようにして調べ、逆に外側を調べる時は伸ばしていた手を脇の横にくっつけ

ます。最後に脇の下を調べることも大切です。何となく乳腺の固さと違うと思われるようなシヨリ

子どもの心の健康(第2回)

母と子の心の健康



大分大学教育学部 助教授 小林 隆 児

ンフルエンザに罹患して保育所を休んだのですが、その時毎日のようにビデオで漫画を見ていたら、以来いつもビデオで覚えたせりふを一人言のように吹き始めました。さらには何をすることも母親にしてみらいたがるようになってしまいました。食べる時も母親にまず食べさせてからでないと安心して自分からは食べようとしません。こうして様子がおかしいからということと私が治療することになりました。

母親自身、独身時代の苦勞を経てやっとつかんだ結婚生活への期待も自分の病氣によって裏切られ、母親としての喜びを味わえないまま未だその哀しみから抜け出せていない状態でした。母子双方に乳児期の満足した体験が無く、基本的信頼関係が十分に育たないまま母子別離体験を繰り返していたのです。B君は当然の如く、依存欲求を満たすべく、病氣を契機に赤ちゃん返りをしたのでしよう。

母親の身体の健康管理と共にしっかりとB君の依存欲求を受け止めるように援助したので。すると母親にも次第に養育の喜びが生まれ、B君にも安心感が育っていったのです。